

要望事項 (優先順位 3)

地域特産チマキザサ再生事業への支援強化

要 旨

花脊別所町を中心に祇園祭の厄除けチマキ等を供給していたチマキザサが十数年前に開花とシカの食害により絶滅してしまいました。

現在、地域の特産品として再生するために、行政と大学、祇園祭関係者、地元自治会等で「チマキザサ再生委員会」を設置し対策を進めていただいているところです。地域の担い手団体「花脊別所チマキザサグループ」が令和3年に設立され、加工技術の伝承とチマキザサの安定した品質の確保と祇園祭厄除けチマキや京菓子等の販売先の確保、活動の見える化と後継者の育成に取り組んでいます。

本年は保護区のチマキザサも一部順調に成長し初出荷を予定するまでになりました。

約7年を要するチマキザサの再生には、管理のできる里山に防鹿柵を設置することが必須です。また、人手の確保も喫緊の課題です。

引き続き、防鹿柵の設置をはじめとする再生事業に行政の支援強化を要望いたします。

回 答**(左京区役所)**

チマキザサ再生事業につきましては、平成25年度に地域の皆様や大学関係者等とチマキザサ再生委員会を立ち上げ、これまで各構成団体により防鹿柵の設置や生育調査、機運醸成及び啓発活動、販路開拓などに取り組んできたところです。

昨年度、チマキザサ再生委員会では、採択された環境省交付金（生物多様性保全推進交付金）を基に、新規の防鹿柵の設置や担い手育成ワークショップなどを開催するなど、その活動の幅を広げた取組を実施してきましたが、今年度はその取組を更に生かすべく、既存防鹿柵内の環境整備や、チマキザサの移植、ボランティア確保のあり方の検討などを予定しています。左京区役所としましても、これらの取組が効率的・効果的に実施していただけるよう、環境省との調整などを含め、しっかりと支援してまいります。

今年度、これまでのチマキザサ再生事業の成果として、また、花脊別所チマキザサグループの皆様のご尽力により、ようやく防鹿柵内のササを京菓子や京料理等の食品関係に初出荷できる状況となりました。「チマキザサを象徴とする地域の生態系を再生、保全し、この生態系の恵みから、経済的な循環を創出する」という目標に少しずつ近づいてきたことを実感しております。

チマキザサの再生が、左京区山間部振興の起爆剤となるよう、引き続き支援を行ってまいります。

(産業観光局)

防鹿柵については、チマキザサの再生のためには欠かすことのできない施設であることなどから、平成29年度から令和2年度の4年間にかけて、花脊別所町の約4haの山林に本市が試行的に設置いたしました。

その結果、良質なチマキザサを育てるための立地や、防鹿柵の形状、設置の方法等について知見が得られ、当面の出荷再開に必要なチマキザサを収穫できる見通しが立ってきたところです。

今後、地域の担い手や関係団体で構成される「チマキザサ再生委員会」の生産計画や販売戦略に基づき、本市としても、令和3年6月に設置した「木の文化・森林政策推進本部」の「チマキザサ再生」ユニットにおいて、庁内の関係部局が連携し、チマキザサ再生委員会の取組に対し、必要な支援ができるよう努めてまいります。